

8-4 大谷瑩誠墨蹟 1幅

紙本墨書
昭和時代(20世紀)
大谷大学博物館

大谷瑩誠の書。「真如一実之信海」とは、親鸞の著作『教行信証』行巻に見られる言葉。大谷の薫陶を受けた第18代学長野上俊静は、その書を「気品のあるみごとなものである。それは、天性によるというよりも、よく習得されたところからでてきた格調たかいものである。」と評している。

9-1 山口益肖像 1点

油絵 高光一也筆
昭和時代(20世紀)

第15代学長山口益(在任期間:1950~58)の肖像。山口は大谷大学所蔵の北京版チベット大蔵經に刺激を受けて、サンスクリット語・チベット語・漢語との対照研究につとめた。昭和2年(1927)フランスへ留学、インド哲学・仏教学を研鑽した。



山口益 1895-1976

9-2 山口益墨蹟 1幅

紙本墨書
大正~昭和時代(20世紀)
大谷大学博物館

山口益の書。「華嚴經」の一節「信為道元功德母」を記したもの。「信は道元、功德の母」とは、悟りへの道の出発点と、その功德の根本は「信」にあるとの意。

10-1 正親含英肖像 1点

油絵 吉田達磨筆
昭和時代(20世紀)

第16代学長正親含英(在任期間:1958~61)の肖像。正親は、大正13年(1924)真宗大谷大学を卒業し、大正15年(1926)より教授を務める。主に「業」の研究に専念し、真宗学の授業を受け持った。



正親含英 1895-1969

10-2 正親含英墨蹟 1幅

紙本墨書
大正~昭和時代(20世紀)
大谷大学博物館

正親含英の書。「白雲一片去悠悠」とは、唐時代に活躍した張若虚の漢詩「春江花月夜」の一節。長江の夜景を詠った漢詩で、白い雲がひとひら遥かかなたへと去っていく様子を詠んでいる。

11-1 曾我量深肖像 1点

油絵 高光一也筆
昭和時代(昭和37年=1962)

第17代学長曾我量深(在任期間:1961~67)の肖像。曾我は明治36年(1903)に清沢満之が結成した浩浩洞に入り、翌年には真宗大学教授となる。後に仏教雑誌『精神界』の編集担当となるなど、清沢の教学を継承した近代教学の大成者として評される。



曾我量深 1875-1971

11-2 曾我量深墨蹟 1幅

紙本墨書
大正~昭和時代(20世紀)
大谷大学博物館

曾我量深の書。「至徳風静」とは、親鸞の著作『教行信証』行巻に見られる言葉。順境な状況を意味する。

12-1 安藤俊雄肖像 1点

油絵 下村良之介筆
昭和時代(昭和53年=1978)

第19代学長安藤俊雄(在任期間:1970~73)の肖像。安藤は天台学を専門とし、特に中国天台の研究にすぐれた業績を残した。昭和45年(1970)学長に就任し、昭和48年(1973)在職中に急逝。本品は当時短期大学の教授であった下村良之介(1923~1998)によって描かれた。



安藤俊雄 1909-73

12-2 安藤俊雄自筆草稿 1冊

紙本インク書
昭和時代(昭和47年=1972)
大谷大学博物館

安藤俊雄の自筆草稿。『浄土の諸問題』(大谷大学真宗学総合研究班編『研究紀要』第1号)に寄せた発刊の辞。200字詰め原稿用紙6枚にわたり、真宗学の由来や課題が述べられている。

2017年度の展覧会 <予定> ※都合により変更する場合があります。

夏季 古文書が語る人々の暮らし

企画展 2017年6月13日(火)~7月29日(日)

秋季 大谷大学博物館の逸品

企画展 重要文化財 三教指帰注集・高野雑筆集

実習生展 併催

2017年9月5日(火)~9月23日(日)



- 地下鉄丸線「北大路」下車、6番出口すぐ
- 市バス「北大路/スターミナル」、「下殿町」、「北大路駅前」下車
- 駐車場はございませんので、お車での来館はご遠慮ください。ただし、身障者用の車の場合は事前にご連絡ください。

大谷大学博物館

Otani University Museum

〒603-8143 京都市北区小山上総町
Tel.075-411-8483 Fax.075-411-8146
http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

京都・大学ミュージアム連携
University Museum Association of Kyoto

2017年度 春季企画展
大谷大学のあゆみ
歴代学長の肖像
明治・大正・昭和
Spring Exhibition 2017
History of Otani University



二代学長
南条文雄



初代学長
清沢満之



三代学長
佐々木月樵

2017年4月1日(土)~5月20日(土)

休館日:日・月曜日、5月4日(火)~5月6日(木)(ただし4月24日(日)、5月8日(日)は開館)

開館時間:午前10時~午後5時(入館は開館の30分前まで)

観覧料:無料

大谷大学博物館
Otani University Museum

大谷大学のあゆみ 歴代学長の肖像 明治・大正・昭和

2017年度 春季企画展

Spring Exhibition 2017
History of Otani University

1-1 清沢満之肖像 1点
油絵 中村不折筆
明治時代(明治38年=1905)



清沢満之 1863-1903

初代学長清沢満之(在任期間：1901～02)の肖像。清沢は東京大学で哲学を専攻し、著作である『宗教哲学骸骨』は明治26年(1893)に行われたシカゴ万国宗教大会で好評を博した。また、雑誌『教界時言』の発刊や浩々洞の結成など、宗門改革や人材の養成に尽力した人物としても知られる。

1-2 「我は此の如く如来を信ず」(我信念) 10枚
複製(原品：紙本インク書)
明治時代(明治36年=1903)
大谷大学博物館

清沢満之の絶筆。晩年の清沢の信念がうかがえる好個の資料。清沢はこれの中で、浄土真宗の他力という概念を身の自力無効という実験により感得し、虚心平気「生死」することを得るという精神主義を主張した。

1-3 『精神界』 1冊
紙本活版
明治時代(明治42年=1909)
大谷大学図書館

清沢満之が結成した浩々洞が発刊した雑誌。仏教の真意を平易な言葉で一般の人に伝えようと願い、明治34年(1901)から大正8年(1919)にかけて刊行された。表紙・カットは清沢らの肖像を描いた中村不折のデザイン、表題の三文字は中国の名筆家褚遂良の書から採字されたもの。



「我は此の如く如来を信ず」(複製)



『精神界』9巻3号

大谷大学は明治34年(1901)東京巢鴨で開学した真宗大学にはじまります。大正2年(1913)京都市小山の地に移転し、現在に至ります。

本展覧会では、明治・大正・昭和の歴代学長の肖像とその遺品を紹介します。

学長は、初代学長清沢満之から現在まで28代を数えます。その肖像は、学恩を受けた人達が感謝の意と先生を懐かしみ顕彰する思いから制作されたものです。いずれも当時交流のあった画家によって描かれており、往時は旧講堂に掛けられていました。

これらの肖像を通じて、大谷大学の歴史と大学の発展のために力を尽くした方々の思いに触れていただければ幸いです。

1-4 『臘扇記』 2冊のうち
複製(原品：紙本墨書)
明治時代(明治32年=1899)
大谷大学図書館

清沢満之の自筆の日記。明治31年(1898)8月15日から翌年4月5日にかけて記されたもの。「臘扇」とは「無用のもの」という自戒の言葉であり、失意と煩累の中で日々の出来事とその時々に来去した思想や信念が吐露されている。なお、原本は清沢が入寺した西方寺(愛知県)に所蔵されている。

2-1 南条文雄肖像 1点
油絵 中村不折筆
大正時代(大正8年=1919)



南条文雄 1849-1927

第2代学長南条文雄(在任期間：1903～11・14～23)の肖像。佐々木月樵の勧めにより南条の古稀を記念して描かれたもの。南条はサンスクリット(梵語)の研究者として知られ、明治21年(1888)には日本最初の文学博士受領者の一人となっている。

2-2 南条文雄墨蹟 1幅
紙本墨書
大正時代(大正10年=1921)
大谷大学博物館

南条文雄の書。「常盤博士の新著に題す」とあることから、常盤大定(1870～1945)の『支那仏蹟踏査 古賢の跡へ』刊行を祝うために書かれたものであることがわかる。常盤は中国仏教学者で、真宗大谷派の学僧。五度にわたって中国仏教の史跡を調査し、中国仏教研究に大きな業績を残した。

2-3 碩果航西詩帖 1帖
紙本墨書
大正時代(大正10年=1921)
大谷大学図書館

南条文雄が、明治9年(1876)から明治17年(1884)のイギリス留学中に作成した漢詩の中から20首を選び手書きした詩帖。碩果は南条の号。大きい柿の意で、生地の大垣(岐阜県)にちなんでいる。

3-1 佐々木月樵肖像 1点
油絵 中村不折筆
大正～昭和時代(20世紀)



佐々木月樵 1875-1926

第3代学長佐々木月樵(在任期間：1924～26)の肖像。佐々木は明治33年(1900)真宗大学を卒業し、清沢満之による浩々洞結成に加わり『精神界』発刊に尽力した。また、清沢の紹介により真宗大学の講師を務め、後に教授となる。大正10年(1921)には沢柳政太郎らと欧米の教育・宗教を視察している。

3-2 佐々木月墨蹟 1幅
紙本墨書
明治～大正時代(19～20世紀)
大谷大学博物館

佐々木月樵の書。浄土三部経の一つ「観無量寿経」の一節「光明遍照十方世界 念佛衆生攝取不捨」を記したもの。「阿弥陀仏の光明はあまねく十方世界を照らし、念佛の衆生を残らず救う」という意。

3-3 「大谷大学樹立の精神」 1冊
紙本インク書
大正時代(大正14年=1925)
大谷大学博物館



大正14年(1925)の入学宣誓式における佐々木月樵の告辞の自筆原稿。220字詰め原稿用紙17枚にわたる。佐々木はこの「樹立の精神」のなかで、大谷大学の三つの目標を示し建学理念をあらわした。

4-1 村上专精肖像 1点
油絵 白滝幾之助筆
昭和時代(20世紀)



村上专精 1851-1929

第4代学長村上专精(在任期間：1926～28)の肖像。村上はインド哲学の研究者として曹洞宗大学林(現・駒澤大学)・哲学館(現・東洋大学)・東京帝国大学の講師などを歴任する傍ら、『大日本仏教史』を刊行するなど仏教史研究の道を開いた。また、明治34年(1901)に提唱した大乘仏教非仏説は仏教界に一大旋風を起こした。

4-2 村上专精墨蹟 1幅
絹本墨書
大正時代(大正4年=1915)
大谷大学博物館

村上专精の書。清の詩人屈復の五言絶句を記したもので、「百金買駿馬 千金買美人 万金買高爵 何処買青春」とある。「速く走る馬や美人や高い地位は相応の金を出せば得られるが、青春はどこで買う事が出来るのか」という意。

5-1 稲葉昌丸肖像 1点
油絵 須田国太郎筆
昭和時代(昭和8年=1933)



稲葉昌丸 1865-1944

第5代学長稲葉昌丸(在任期間：1928～31)の肖像。稲葉は明治22年(1889)に25歳で京都府尋常中学(現・大谷高校)校長に就任するなど人材の養成に携わる一方で、清沢満之らと共に本山寺務改革運動にも参加した。また、晩年には蓮如の史的研究に没頭し、学術価値の高い業績も残している。

5-2 稲葉昌丸墨蹟 1幅
紙本墨書
明治～昭和時代(19～20世紀)
大谷大学博物館

稲葉昌丸の書。「巻舒」とは、「巻くこととひらけること、また進むことと退くこと」を意味する。

6-1 上杉文秀肖像 1点
油絵 須田国太郎筆
昭和時代(昭和10年=1935)



上杉文秀 1867-1936

第6代学長上杉文秀(在任期間：1931～34)の肖像。上杉は真宗大学で山田文昭(仏教史学)・楠潜龍(真宗学)に師事した。明治34年(1901)に真宗大学教授となり、その後京都帝国大学などの講師も歴任した。

6-2 上杉文秀墨蹟 1幅
紙本墨書
昭和時代(昭和5年=1930)
大谷大学博物館

上杉文秀の書。浄土真宗で七高僧の一人として数えられる善導の著書『往生礼賛』の一節「徳水分流尋宝樹 聞波観衆證恬怕 寄言有縁同行者 努力翻迷還本家」を記したもの。上杉は昭和5年の夏安居で『往生礼賛』を講義している。

7 関根仁応肖像 1点
油絵 黒田重太郎筆
昭和時代(昭和19年=1944)



関根仁応 1868-1943

第11代学長関根仁応(在任期間：1941～43)の肖像。関根は真宗大学学生であった明治29年(1896)、清沢満之らの本山事務改革運動に参加し退学処分となるが、その後復学。昭和11年(1936)からは大谷派宗務総長を務めた。

8-1 大谷瑩誠肖像 1点
油絵 太田喜二郎筆
昭和時代(昭和24年=1949)



大谷瑩誠 1878-1948

第13代学長大谷瑩誠(在任期間：1944～48)の肖像。大谷は東本願寺第22代現如の次男。京都帝国大学で内藤湖南に師事し東洋学を修め、大正13年(1924)から2年間フランスへ留学し、中国古文書とくに敦煌古文献の研究に従事した。

8-2 中国古印 20顆
銅製
中国・後漢時代(1～3世紀)
大谷大学博物館

大谷瑩誠が蒐集した中国後漢時代の古印。大谷は東洋関係の資料の蒐集を行っており、そのコレクションは「禿庵文庫」として当館に所蔵されている。「禿庵文庫」には古印を始め、封泥、硯、拓本など重要文化財を含む貴重な資料が多数存在する。

8-3 大谷瑩誠自筆草稿 89冊のうち
紙本墨書
昭和時代(20世紀)
大谷大学博物館

史料や論文の筆写を中心とした大谷瑩誠の自筆草稿。本品の外題には「三階教史資料」とあり、中国隋代に興隆した三階教について記されている。「禿庵文庫」に含まれる宋拓「信行禪師興教碑」(重要文化財)に関連する資料と考えられる。